

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	滑膜肉腫に対する集学的治療に関する多施設共同レトロスペクティブ研究
	研究目的	<p>滑膜肉腫は全軟部肉腫の5～10%を占め、主に青年および若年成人に発生する悪性腫瘍である。他の軟部肉腫に比べ高率に局所再発・遠隔転移を生ずることが知られており、根治的局所治療としての腫瘍広範切除術が広く受け入れられている。一方滑膜肉腫は化学療法高感受性と考えられ、特に1990年以降の ifosfamide(IFO)を含む多剤併用化学療法の導入は、本肉腫の治療戦略の根幹を成すものとなった。</p> <p>本肉腫の治療成績に関するに諸外国の報告では、腫瘍最大径、病期、悪性度、切除縁評価、局所再発、重要脈管への浸潤などが予後関連因子として挙げられている。しかしながら、これまでの予後因子解析の結果、化学療法の予後に与える影響は未だ意見の一致を見ていない。また、局所補助療法としての放射線治療に関しても、世界的に一定の見解はない。今回、本邦でも有数の症例集積がある5施設において、滑膜肉腫の治療成績をレトロスペクティブに調査し、化学療法や放射線治療の有用性を検討することを目的とする。</p>
	研究期間	2014年12月25日から2017年12月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	比留間 徹
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	骨軟部腫瘍外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	国立がん研究センター骨軟部腫瘍科・リハビリテーション科 川井 章 千葉県立がんセンター整形外科 米本 司 東京大学整形外科 河野 博隆 慶応義塾大学整形外科 森岡 秀夫